

中村平治教授 — 略歴・主要著作目録

I 学歴・職歴

- 1931(昭和6)年8月 長野県諏訪郡原村中新田にて中村 平, さとみの長男として出生
(実名: 平次)
- 1944年3月 諏訪郡永明村立永明国民学校初等科卒業
- 1944年4月 県立諏訪中学校入学
- 1950年3月 県立諏訪清陵高等学校卒業
- 1951年3月 東京外国語大学東京外事専門学校専修科英語科卒業
- 1955年3月 東京外国語大学外国語学部第7部第1類(インド語・国際関係専修)卒業, 文学士
- 1957年3月 東京大学大学院社会科学研究所国際関係論専門課程修士課程修了, 国際学修士
- 1957年4月 東京大学東洋文化研究所助手(任期: 6年)。この間, インド政府給費留学生としてデリー大学に留学(1958-1960年)
- 1963年4月 東京大学東洋文化研究所非常勤研究員
- 1965年2月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所講師
- 1967年4月 同, 助教授昇任
- 1973年6月 同, 教授昇任
- 1977年4月 東京外国語大学大学院地域研究研究科授業担任
- 1994(平成6)年3月 停年により東京外国語大学教授退官

II 学会活動

- 1977年5月 歴史学研究会『歴史学研究』編

集長(1979年5月まで)

- 1986年5月 歴史学研究会委員長(1989年5月まで)
- 1988年10月 日本南アジア学会理事(現在に至る)

III 海外出張(1958.7-1992.9)

インド, イギリス, ケニア, カナダ, アメリカ, 大韓民国, パキスタン, スリランカ, ルーマニア, フランス

IV 非常勤講師(1963.4-1994.3)

アジア・アフリカ語学院, 愛知大学文学部, 青山学院大学文学部, 茨城大学人文学部, お茶の水女子大学文教育学部, 金沢大学法文学部, 神戸大学文学部, 静岡大学人文学部, 信州大学人文学部, 聖心女子大学文学部, 専修大学文学部, 千葉大学教育学部, 中央大学商学部, 東京外国語大学外国語学部, 東京学芸大学教育学部, 東京教育大学文学部, 東京女子大学文理学部, 東京大学〔東洋文化研究所・文学部〕, 東京都立大学人文学部, 新潟大学人文学部, 広島大学〔総合科学部・文学部〕, 横浜国立大学教育学部, 立教大学法学部, 早稲田大学政治経済学部

V 研究業績

1 著書

- 『ネルー・人と思想』清水書院, 1966年11月, 新書判, 207頁。
- 『南アジア現代史 I インド』山川出版社, 1977年8月, 四六判, 383頁。
- 『現代インド政治史研究』東京大学出版会,

1981年11月, A5判, 280頁。

2 編著

『インド現代史の展望』青木書店, 1972年11月, 四六判, 373頁。

『アジア1945年』青木書店, 1985年8月, 四六判, 220頁。

『世界史年表』〔歴史学研究会編: 年表編集委員会委員長〕岩波書店, 1994年3月, B6判, vi+456頁。

3 編著(資料集)

『インド・パキスタン分離独立の史的研究』アジア・アフリカ言語文化研究所, I [1976年・236頁], II [1977年・228頁]。

Transformation and Peasant Movements in Contemporary Asia, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1985年3月, 英文, 84頁。

『アジア政治の展開と国際関係』アジア・アフリカ言語文化研究所, 1986年3月, 171頁。

4 共著

「第一次世界大戦とインド」『世界史体系』15, 誠文堂新光社, [401頁中, 340-357頁], 1959年2月。

「ローカマーンヤ・ティラク——帝国主義批判の一視角——」『世界の歴史』15, 筑摩書房, [284頁中, 229-246頁], 1962年2月。

「嵐にたつ現代インド思想」『思想の歴史』12, 平凡社, [430頁中, 35-84頁], 1966年3月。

「インド・東南アジアにおける民族運動」『世界歴史』23, 岩波書店, [467頁中, 115-136頁], 1969年12月。

「インド現代史の開幕と1920年代」『世界歴史』25, 岩波書店, [564頁中, 427-450頁], 1970年8月。

「インド民族運動の新展開」『日本と世界の歴史』21, 学習研究社, [349頁中, 258

-263頁], 1971年5月。

「第二次世界大戦とインド」『日本と世界の歴史』22, 学習研究社, [349頁中, 292-297頁], 1971年6月。

「インド民族運動の新段階と帝国主義支配」『世界歴史』28, 岩波書店, [526頁中, 381-401頁], 1971年7月。

「中印関係の諸段階とその課題」『現代中国の国際関係』(入江啓四郎・安藤正士編) 日本国際問題研究所, [377-409頁], 1975年10月。

「独立への長い道程・インドの独立・インドとその国際関係」『世界の歴史』24, 講談社, [398頁中, 271-386頁], 1978年8月。

「インドの独立とネルー時代」『戦後世界史』上巻, 大月書店, [97-109頁], 1988年12月。

「インドの強権政治と多元的統治」『戦後世界史』下巻, 大月書店, [110-123頁], 1989年1月。

「地域研究と現代史研究」『地域研究の現在』大修館, [385頁中, 198-211頁], 1989年2月。

5 論文

「ガンディーとインド・ナショナリズム——スワデーシー運動の検討——」『思想』1957年4月, 39-51頁。

「ビピン・チャンドラ・パールの政治思想について」『東京大学東洋文化研究所紀要』20, 1960年3月, 213-260頁。

「インド現代史の開幕とその基礎条件」『東洋文化』(東洋文化研究所) 34, 1963年2月, 1-34頁。

「インド現代史の展開とその基礎構造」『思想』1966年9月, 47-61頁。

「現代世界の紛争とエスニシティ——イギリスと南アジアから——」『思想』1987年7月, 4-22頁。

6 翻訳

- 『インド—その人々の歴史』(アルジュン・デーウ著) 帝国書院, 共訳・監修, 1981年3月, 375頁。
- 『インドの共産主義と民族主義—M・N・ローイとコミンテルン』(J・P・ヘイスコックス著) 岩波書店, 共訳・監修, 1986年10月, 360頁。

7 国際学会報告

- “Decline of the Imperialist World System and Problem of Peace in Asia in the 20th Century,” 第15回国際歴史学会議〔ルーマニア, ブカレスト, 1980・8・10-17〕, 共同報告, 英文, B 5 変型判, 806頁中503-510頁, 1980年8月。
- “Religion, Ethnicity and Multi-Culture Relating to Trans-Cultural Understanding,” モウラーナー・アブール・カラム・アーザード国際セミナー〔インド, ニュー・デリー, 1990・2〕, 英文, 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』1990年9月, 5-10頁。

8 研究動向

- “The Debatable Issues in the Study of the Contemporary History of India,” *The Developing Economies*, Tokyo, Vol. 6, No. 2, June 1968.
- 「バングラ・デーシ問題の分析視角」『歴史学研究』1971年11月。
- Contemporary South Asia — Oriental Studies in Japan; Retrospect and Prospect 1963-1972*, II -24, The Center for East Asian Cultural Studies, Tokyo, Dec. 1974
- 「南アジア」『日本における歴史学の発達と現状』(国際歴史学会議日本国内委員会編) 東京大学出版会, 1976年3月, 588頁中381-391頁。
- 「会議派支配とインド研究の課題」『近代日本における歴史学の発達』下巻, (江口

朴郎, 野原四郎, 松本新八郎編) 青木書店, 139-150頁, 1976年10月。

“Japanese View on India Reconsidered,” *Japan Quarterly*, Vol. 29, No. 1, 1982, pp. 105-111.

「インド近現代史」〔史学雑誌〕掲載, 『日本歴史学会の回顧と展望』18, 史学会編, 山川出版社, 1988年2月。474頁中, 1961年: 222-226頁, 1962年: 231-235頁, 1967年: 280-285頁, 1969年: 300-305頁, 1976年: 372-376頁。

「エスニシティ—から地域統合まで」『歴史学研究』1992年5月, 27-29頁。

9 書評

- 『インドの現代思潮』(斎藤吉史著), 『東京新聞』1980年6月23日。
- 『危機管理国家体制—非常事態下のインド』(大内穂編), 『朝日ジャーナル』1980年10月10日。
- 『インド国民軍』(丸山静雄著), 『エコノミスト』1985年12月24日。
- 『支配の代償—英帝国の崩壊と“帝国意識”』(木畑洋一著), 『歴史評論』1988年2月。
- 『民族とは何か』(川田順造ほか編), 『思想』1989年2月。

10 時論・回想

- 「南アジア政治の動向」『国際年報』日本国際問題研究所, 9巻〔1970年〕～21巻〔1985年〕。
- 「後進的な日本と先進的な沖縄」『東京大学新聞』1970年6月8日。
- 「印パ戦争の分析」(松岡英夫氏との対談)『毎日新聞』1971年12月24日～31日。
- 「ナクサライトの退潮」『朝日アジア・レビュー』1972年6月。
- 「一女性写真家とインド独立」『歴史と地理』1975年5月。
- 「ガンジー首相の憂うつ」『歴史評論』1975年11月。

- 「インドが派遣した対中国医療使節団」『朝日新聞』1978年4月10日。
- 「竹沢護記者とインド」『竹沢護遺稿集』共同通信社編纂委員会編，1980年5月。
- 「第三世界からみた歴史—インドの教科書を翻訳して」『信濃毎日新聞』1981年5月10日。
- 「松井坦君の思い出」『松井坦—その人間と学問』遺稿・追悼集刊行会編，1981年11月。
- 「ガンジー：虚像と実像」『朝日新聞』1983年5月24日。
- 「モザイク・モデル論とインド」『朝日新聞』1983年8月18日。
- 「諏訪とバナーラスと作家」『千葉史学』1984年3月。
- 「転機の国民会議派」（座談会：斎藤吉史・山口博一両氏）『朝日新聞』1984年11月1日。
- 「蒲生礼一先生と私」『蒲生礼一先生記念論集』蒲生礼一先生10回忌記念刊行会，1987年7月。
- 「天皇症候群を排す」『歴史学研究』1989年3月。
- 「インドの連邦制と民主主義」『朝日新聞』1991年11月27日。
- 「‘博士課程’時代」『東洋文化研究所の50年』東京大学東洋文化研究所，1991年11月。
- 「アヨーディヤー問題とインドの歴史家たち」『歴史と地理』1992年2月。
- 「日本型オリエンタリズム」『日本国際政治学会ニューズレター』66号，1994年1月。
- 「田中忠治さんと私たちの地域研究」『地域学を求めて—田中忠治先生退官記念論集』退官記念論集刊行会，1994年1月。